

平成 31 年 3 月 16 日 (土)

ハートライフ病院

【症例】

60 歳代男性。当院ドッグにて肺の異常陰影、PSA 高値 (10.02ng/mL) を指摘され、当院内科外来を受診された。PET-CT では両肺に多数の境界明瞭な結節影が認められ、多発肺転移が示唆されたが、全身に原発巣を疑う所見は認めなかった。後日、肺癌疑いにて気管支洗浄および肺生検 (TBLB) が施行された。

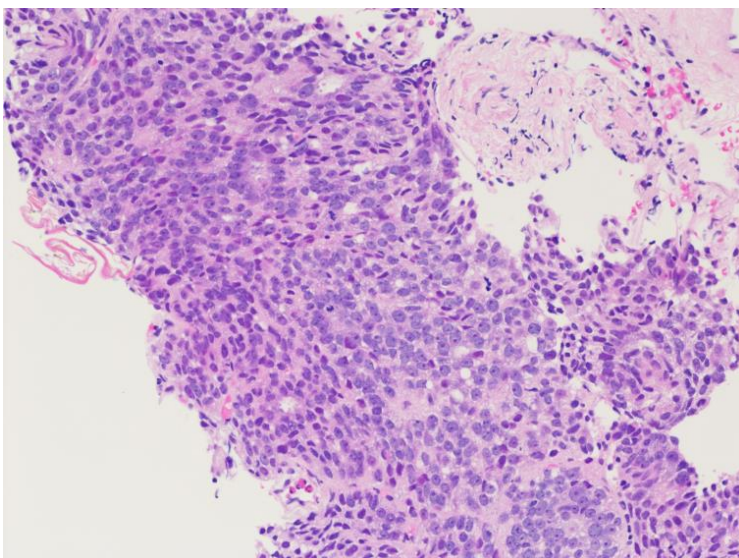
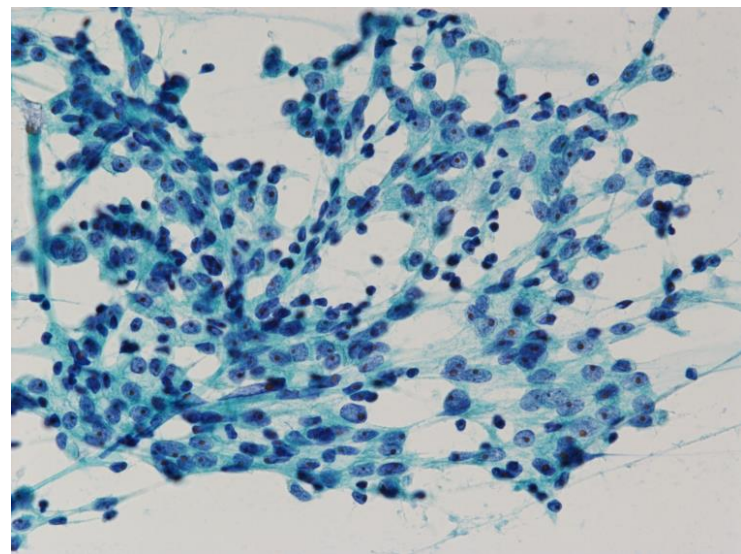
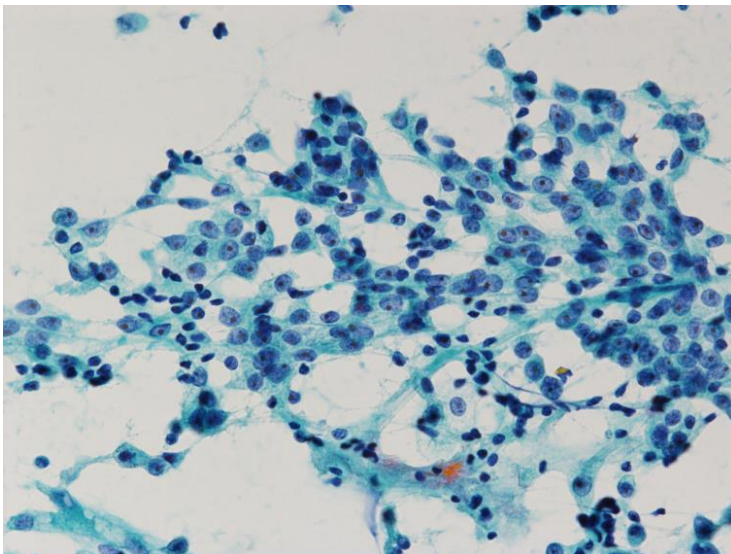
【細胞所見】

異型細胞は集塊から弧在性に散見され、概ね均一な異型細胞が平面的な集塊を形成し、集塊からの細胞のほつれもみられた。N/C 比は増大し、核形は類円形から楕円形、柔らかい印象を受けるクロマチンが繊細から微細顆粒状を呈し、明瞭な核小体を有していた。

細胞診断：Positive (Adenocarcinoma)

【病理所見】

肺生検標本では核腫大、明瞭な核小体を認める腫瘍細胞集塊が腺腔様構造を伴って増殖していた。細胞間橋、角化は見られなかった。肺生検標本で見られた腫瘍細胞集塊は肺胞を置換して増殖する肺腺癌とは異なる増殖形態であった。又、腫瘍細胞集塊は同患者の前立腺針生検標本でみられた前立腺癌細胞集塊と同様の形態と免疫組織化学的形質を示した為、前立腺癌の転移と診断された



Pap × 40	Pap × 40
HE × 40	